学校番号	2003

平成 31 年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	1 単位	年次	2 年次
使用教科書	地学基礎　「啓林館」						
副教材等	センサー地学基礎　改訂版						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日々の暮らしの中にある地学現象やそれによって作られたものは、何気なく生活を送っていると見逃してしまうことが多い。石、土、山、川、空、太陽、月、雲、雨、天気、星などの身近なものから、洪水、崖崩れ、土石流、地震、津波、火山噴火などの災害まで、われわれが生きていく上で学ばなければならないものがほとんどである。地学を勉強し、地学を身近に感じることができれば、毎日の生活の中で人間は地球とともに生きているということが感じられるようになるあろう。また、今のこの地球環境がどこにでもあるようなものではなく、宇宙の中において類まれな条件の下に創られたものであるということがわかれば、環境への意識も大きく変わっていくものと思われる。

2　学習の到達目標

われわれの地球は、どのように創られ、どのような変遷を経て今の地球があるのか。その中で人間という生物はどのような位置にいるのか。これらのことを勉強することで、今われわれがやらければならないのはどのようなことなのかということを考える。

まず、地球の歴史を解明する方法として、先人たちは地層を調べ多くのことを発見してきた。化石や堆積構造から、昔地球上に起こった地学現象まで、そしてそこに暮らしていた古生物など。次第に昔の地球の姿が浮かび上がり、地球誕生からの歴史が解明されてきたことを理解する。

また、1 年で習った大気の動きをもとに日本の天気を理解し、日常生活に活用する。

最後に、この地球の歴史の最後に登場した人間によってこの地球の環境が大きく破壊されようとしていることを理解し、どのように取り組んでいくのかということを考え、また 1 年生からの地学の勉強を通して見えてくるいろいろな自然災害に対し、具体的な対策およびそれに対する方向性を少しでも考えられるようにする。

3　学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a ：関心・意欲・態度	b ：思考・判断・表現	c ：観察・実験の技能	d ：知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち，意欲的に探究しようとするとともに，地学的な事物･現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど，科学的な見方や考え方を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境に関する事物･現象の中に問題を見いだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物･現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境について基本的な概念や原理･法則を理解し，知識を身に付けている。

評価方法	学習状況の観察 授業中の積極性 ノートやプリントなどの記述内容 宿題の提出と記述内容 実習・探究活動の取り組み方と記述内容	学習状況の観察 授業中の積極性 ノートやプリントなどの記述内容 宿題の記述内容 実習・探究活動の記述内容	学習状況の観察 授業中の積極性 実習・探究活動の記述内容（特に結果への導き出し方と考察の内容）	学習状況の観察 ノートやプリントなどの記述内容 宿題の提出と記述内容 実習・探究活動の記述内容
上記の観点に基づいて、各判断材料ごとに点数化し、学期ごとに 100 点法で評価し、学年末において 5 段階法で評価する。				

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価基準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	宇宙の構成	①　太陽系と太陽					a：身近な太陽系の天体への関心・興味から見ていく。 b・d:想像しにくい太陽系の誕生をイメージし、理解する。 c:太陽の黒点観測から太陽の性質を理解する。	学習状況 授業中の積極性 ノート プリント 宿題 実習・探究活動 定期考査
		・太陽系の天体 ・太陽系の誕生 ・太陽	○	○	○	○		
2学期	移り変わる地球	①　地球史の読み方					a・c:化石の観察から恐竜などの古生物への興味・関心を持つ。 b:昔の堆積環境やその後の地殻変動をイメージする。 d:岩石がつくられる過程を理解する。	
		・堆積岩とその形成 ・地層と地質構造 ・地球の歴史の区分と化石		○ ○		○		
		②　地球と生命の進化						
		・先カンブリア時代～顕生代	○		○			
3学期	大気と海洋　自然との共生	①　日本の天気					a:化石燃料からの脱却という大きなテーマの可能性を探る。 b:環境問題の原因と対策を考え判断する。 c:日々の暮らしの中で、空･雲･気象現象を観察し、考える。 d:写真・映像などを通して、理解し、判断し、対策を考える。	
		・冬・春・夏・秋の天気			○			
		②　自然との共生						
		・いろいろな災害 ・地球の環境 ・いろいろな資源	○	○ ○	○	○		

＊表中のａ～ｄは、３の学習評価の記号に対応している。

＊○は重点を置く観点で、基本的にはすべての小単元ですべての観点に基づいて評価を行う。